

カリフォルニアの風

平成16年9月4日

校長通信 9月号 (SFJLC-9)

サンフランシスコ日本語補習校

『夏に見た風』

真っ黒に日焼けした子ども達が補習校にもどってきました。ちょっとした仕草から、ひと回り大きくなった子ども達を感じます。夏の作品にも、今夏の見聞や体験を垣間見ることができます。自信たっぷりの説明の中から、成長やご家族との絆が感じられて微笑ましい限りです。単なる思い出のためではなく、成長の証を刻み付けるために、子ども達には「どしどし文章を書こう。」と話をしています。見聞きしたり、体験したことを簡単にアルバムの中に仕舞い込んでしまわないで、「自分の言葉で文章に残そう。」と言っています。自分だけしか知りえない感動を自身の言葉で残すこと。通り一遍の形容ではなく、自身の叫びを文章に残すこと。言葉のミネラルを含んでいる文章はそんな文章です。

「海外子女文芸作品コンクール」(主催:海外子女教育振興財団)での詩の部の総評の中で、選者の一人である詩人、長田 弘氏は次のように語っています。「じっとみつめ、深く感じ、よく考えられた言葉を、自分の指で一つ一つ確かめるようにして書かれた言葉はすばらしい。むやみな言葉やよどみない言葉ではなく、どこまでも自分の言葉を探しながら書かれた文章、言葉そのものをまっすぐみつめている、と感じさせられる文章には言葉のミネラルをいっぱい含んでいる。」さて、本年度はどのような作品が集まるのでしょうか。

「夏の作品展」は小学部SFは9月4日、SJは11日、「校内文芸作品コンクール」は年度末発表の予定です。本年度は「やまなみ」での公表ではなく、4校を一つの作品集として冊子にまとめ配布する予定です。

さて、話は変わりますが、前半期(集中期間中)は小学部SF校のボヤ火災を始め、小学部SJ校の工事等保護者の皆様にはいろいろとご心配をおかけいたしました。今後はさらに安全指導・管理に万全の注意を払いながら教育を進めてまいります。よろしくご支援をお願いいたします。

後半期(実際は10月9日後期始業)をスタートするにあたって、各校の現状及び課題を担当教頭よりまとめました。

ご一読くださり、ご家庭でのご協力をお願いします。

〈各校の取り組み～現状と課題〉

【小学部SF校 教頭 菅野 公司】

小学部サンフランシスコ校では毎週土曜日、遠くからも日本語の学習をするためにたくさん子ども達が集まってくれます。平日も現地校の学習をしている遊び盛りの子ども達にとって土曜日に通学することは大変だろうと思いますが、どの子もよく頑張っている様子が見られます。

さて、本校教頭の目を通しての課題は(1)休み時間に廊下を疾走したりヤードに出ない子どもが見られたりする(2)遅刻・早退または中途に何らかの理由で授業を抜ける子どもが多い、という点があげられます。(1)に関してはこれまでも休み時間の当番、生徒指導部担当を中心に全教員で指導するという対応をとってきましたが今なお十分な状態とは言えません。9月以降は休み時間の当番教員配置を工夫し、さらに子ども達の生活指導に配慮していきたいと思います。(2)に関して私たちは、補習校は学習だけでなく生活を含めて子ども達を育む場ととらえていますが、このような場合、学校の指導が子ども達に届きにくいことが考えられます。また迎えにくる方が必ずしも保護者ではないという時もあり、子どもの安全を確保するという責務を持つ補習校としては対応に苦慮しているのが現状です。今後とも保護者の皆様にこの点についてご理解・ご協力をいただけますようお願いいたします。

【小学部SJ校 教頭 夏越 伸一】

夏休み明けの小学部サンノゼ校には、546人の児童が在籍しております。担任や専科の先生の話をよく聞き、学習に積極的に参加している児童の姿はカリフォルニアの青空のようにすがすがしく感じられます。

そんな子どもたちの学習する姿を参観していて、日本の学習風景と違う場面ときどき出合います。中でも、発表するときの児童の行動に「？」と思います。といいますのは、日本では、発表したいときには手を挙げ、先生に指名されたときに「はい」と返事をして起立し、それから発表します。日本の教室では当然のこととして見慣れたこの風景は、本校ではなかなか見ることができません。本校の設立目的の第1項目には「日本の学校や社会に適應できる素地を養う」とあります。本校が設立目的にある補習校としての役割を果たすためにも、これからの指導の重点の1つとして、日本における児童の、教室での行動様式について知らせ、実践できるような支援が必要であると考えています。また、小学部サンノゼ校の登下校時は大にぎわいになります。毎朝、教職員まで合せて400台近い乗用車が学校に向かいます。駐車場や近辺の路上は、本校の児童・保護者でいっぱいになります。学校までほんのわずかなところまで来ても、やはり児童一人での登校には危険が伴います。運動場まで親子でいっしょにやっ来て、保護者のみなさんには全校朝会を終え教室へ向かう児童の後ろ姿まで見送っていただけると、子どもたち

の充実した一日が約束されるように思えます。また、下校時は、教室前まで保護者の方々に子どもたちの迎えに来ていただく約束になっています。担任がご預かりしたお子さまの一人一人を保護者の方々に手渡しで見送ることで、一日の無事を確認しています。

保護者のみなさまは、朝には学びに行く子どもを励まし、帰りには一日の出来事を聞き、ほめ、認めてあげる。わたしたち教職員は一丸となって、子どもたちの学校教育に励む。外国語環境の中で、いっしょうけんめい日本語を学び身につけていく児童一人一人を、ともに愛情こめて見守ってあげましょう。

【中高部SF校 教頭 安栄 智裕】

2ヶ月の夏休みを終え、生徒の元気な声が学校に戻ってきました。集中学習期間中に行われた「校内球技大会」は晴天に恵まれ無事終了することが出来ました。球技大会委員が中心となった準備や運営で、さすが中高生という場面も多々ありました。また、保護者会やボランティアの方々のご協力に御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、年度の後半に向けて、中高部SF校の現状と課題についてお知らせします。

中高部SF校の現状といたしまして、休み時間や昼食中の「英語による会話」が至る所で見られます。

補習校は「日本の教科書を使い、日本の教え方で、日本語によって、教科や学校文化を学習する学校」です。登校から下校まで学校内では日本語で考え、話し、書き、学ぶことが大前提です。その中で日本の学校文化などを通して日本という国そのものを学んでほしいと思っています。ですが、現状のような状況が続きますと、生徒の日本語力の低下は避けられません。中学、高校になると教科内容の難しさも増してきます。中高部SF校の課題として、日本語力の維持・向上には特に意識して取り組む必要があると思います。

学校ではこの9月から以下のことに取り組みます。

1. 学校内では日本語のみで生活するよう指導を徹底します。
2. 各教科、生徒に読ませる、書かせる、発表させることを中心とした授業の展開をします。

週1回の補習校の授業だけでは、自ずと限界が見えてきます。ご家庭でも日常から日本語での会話や読書を習慣づけるよう、ご指導ご協力をお願いします。

【中高部SJ校 教頭 生田目 将】

中高部サンノゼ校もお陰様で集中学習まで無事授業日を過ごすことができました。

さて、夏休み明けの後半に向けて、登校時間に関してお願いを致します。実は4月以降、徐々に登校が遅れる家庭が増えてきているのが現状です。学校では、時間の大切さを学ぶことも大切なことの一つです。また、朝礼から気持ちよく参加することが授業へよりスムーズに入れることとなります。ぜひ、朝の余裕を持った登校をお願いいたします。

【 お知らせ 】

☆中高部SJ校 教頭 生田目 将は体に違和感をおぼえ、夏季休業中に日本に一時帰国し、検査入院を致しております。帰任は9月末になる予定です。中高部SJ校の教頭業務は校長が当面の間兼務いたします。ご理解とご協力をお願いいたします。

【今月の学校行事】

9月	小学部SF	中高部SF	小学部SJ	中高部SJ
	4日 夏休み作品展 11日 高等部説明会 (教員向け) 18日 教員研修 25日 理事訪問	11日 高等部説明会 (教員向け) 期末テスト 18日 教員研修会 (会場：小SJ)	11日 夏休み作品展 高等部説明会 (教員向け) 18日 理事訪問	11日 期末テスト 高等部説明会 (教員向け)

【校長巡回予定】

	小学部SF	中高部SF	小学部SJ	中高部SJ
9月	18日 終日 25日 P.M	25日 A.M		4日 終日 11日 終日